

認定こども園 Fuji こどもの家バンビーノの森における 森のようちえん型サマースクール

認定こども園 Fuji こどもの家バンビーノの森（株式会社バンビーノの森）
（山梨県）

<http://www.bambino-mori.co.jp>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

富士北麓の園庭の森と、近くの私有林数か所を無償でお借りして主な活動を行い、また、近くの河口湖畔での活動も取り入れている。

自然に囲まれた生活環境ではあるが、家庭で自然に触れ合う機会は少ない。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

2007年より地域の子どもの自然体験の場を作ることと卒園児が夏休みに帰ってくる場と考えスタートしたが、数年後には東京を中心とした都市部の子どもが夏休みの体験として参加するようになってきた。地元の子とも都市部の子どもが自然の中での遊びを通し仲良くなり、次年度の再会を約束するなど、自然の中での遊びを継続するきっかけとなっている。

子ども自身が「また行きたい」という場所が、自然を楽しむ場所となることを願っている。

取組の概要

🌿 取組の内容

夏休み（7月下旬からの3週間）に年少～小学2年生を対象に、1週間単位で申込可能なサマースクールを、3クール行っている。毎日9時集合、15時解散で宿泊を伴わない。原則として、天候にかかわらず、森林内での自由遊びを中心に1日を過ごす。

🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

森の中での自由遊び、自然物を使ったクラフト、河口湖での水遊び、外国人講師による英語での遊びなどを行っている。毎日森で活動している、バンビーノの森の子どもも同じフィールドで活動しているため、自然の中での遊びが不慣れな子どもでも遊びを発展させやすい。

観光地でもあるので、保護者は子どもが参加している間に大人だけで自然体験や観光を楽しみ、前後の週末に親子で体験を楽しんで帰る様子が見られる。

「自然環境を大切に」ということは机上の学びで理解することはできるが、「自然環境を大切にしたい」という思いは、幼少期に自然の中が“楽しい”“面白い”“不思議”という原体験をしていることが不可欠だと考えている。



実施体制について

実施者は保育士・幼稚園教諭など、子どもの発達段階や特性を理解している者、自然体験の知識や技術を持っている者などの連携と相互の学びが必要である。安全管理の視点においても、子どもの発達における視点と、自然体験の視点が必要で、情報共有と学びの場を継続的に設けている。

安全性への配慮

実施者であるバンピーノの森は、NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟の安全認証を受けている。

服装や持ち物など子どもが快適に過ごすための準備を事前にお知らせし、危険な動植物とその対応の仕方などは、実物や写真等を使い参加者と共有している。

気象状況の変化にも注意を払い、事務所（本部）と現場の情報伝達が常にできる体制を作り、シーズン前には、暑さや急な雷雨等の対応の仕方をスタッフで再確認している。

また、ヒヤリハット小事故報告をこまめに共有検証し、安全意識と対策の向上に努めている。

地域機関・団体との連携

河口湖畔での活動においては、地域の自然学校（カントリーレイクシステムズ）にフィールドと子ども用ライフジャケットをお借りし、指導者のアドバイスを受け活動している。また、英会話教室の外国人講師と一緒に遊ぶ機会も設け、活動に膨らみを持たせている。

取組による効果

子供・保護者への影響

継続参加している子どもの母親から、次のような話を聞きました。「家族で出掛けた際に、子どもが落ちていたゴミを拾ってきた。“そんな汚いものを拾ってきて”と言いそうになった時、子どもが“木がかわいそうだね”と言った。こんな気持ちも育っているのですね。親の私が恥ずかしくなりました。」

2～3クール連続で参加する方、小学2年生まで毎年参加する方、次年度には友達を誘って参加する方など、子どもの楽しかった記憶と共に、保護者が良さを実感していただいているからだと感じている。

地域社会への影響

この活動の母体である、認定こども園へは、“森のようちえん”という活動に共感し、広域から入園希望がある。保育者においても、広域から採用応募がある。

地域の公立保育園の子どもたちを森へ招くといった交流活動も始めている。

これらの取組を通じて、少子高齢化対策にも貢献していると思われる。

取組を通じて全体的な所感

サマースクールの活動は、普段自然と触れ合う機会が少ない子どもたちが自然と触れ合う機会となるだけでなく、そこに暮らす同世代の子どもと遊びを共有することで、楽しさも倍増し、より自然を身近に感じ、その地域全体を好きになり、大切にしたい心と育んでいると感じている。また、宿泊を伴わないことが年齢の低い子供でも参加しやすく、1週間という連続性が“自然と触れ合う”の1歩先の経験へつながっていると思われる。